

一九一九番

国くにす栖すらが 春菜はるなつ摘つむらむ 司馬しばの野のの しばしば
君きみを 思おもふこのころ

一九二〇番

春草はるくさの 繁しげき我が恋こひ 大おほき海うみの 辺へに行くゆ波なみの
千重ちへに積つもりぬ

一九二一番

おほほしく 君きみを相あひみ見みて 菅すがの根ねの 長ながき春はる日ひを
恋こひ渡わたるかも